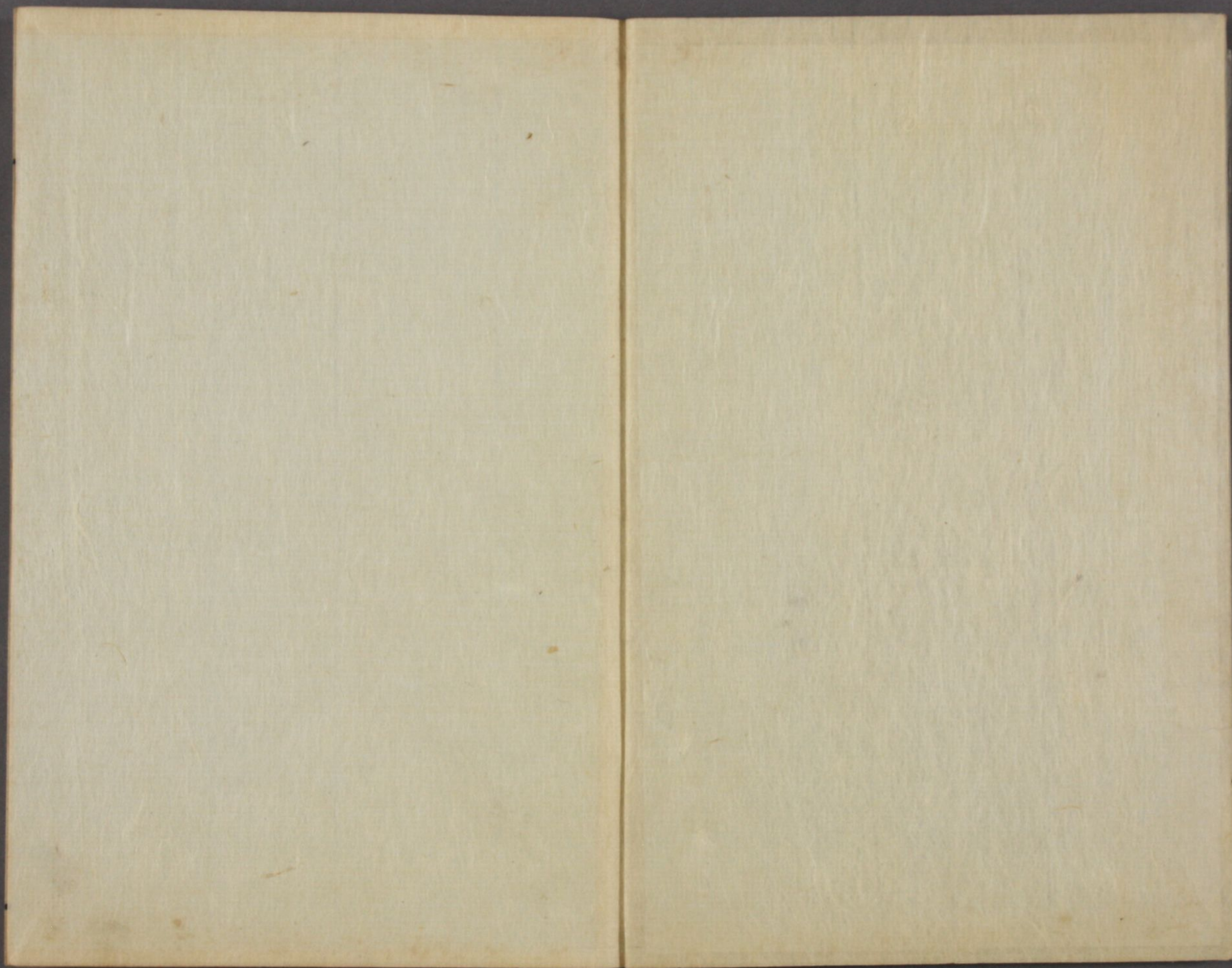


古今集遠鏡

五







古今和歌集卷第十四巻終

意多口

歌三つば

よみ人しうぎ

みちのくのはらう乃沼花がうのゆふ人ゆきやうしむ

○上カツぐニチヨットカウをヌバカリノ人ヲコレライツデモ意シウ

出ウテ月日ヲタテルコトデアラウカイ

をえむハ<sup>ル</sup>一<sup>ル</sup>に<sup>ル</sup>も<sup>ル</sup>ゆ<sup>ル</sup>し<sup>ル</sup>き<sup>ル</sup>も<sup>ル</sup>ぞ<sup>ル</sup>人<sup>ル</sup>を<sup>ル</sup>き<sup>ル</sup>べ<sup>ル</sup>う<sup>ル</sup>ら<sup>ル</sup>

○一<sup>ル</sup>夜<sup>ル</sup>モ<sup>ル</sup>を<sup>ル</sup>タ<sup>ル</sup>ガ<sup>ル</sup>ナ<sup>ル</sup>ク<sup>ル</sup>バ<sup>ル</sup>ハ<sup>ル</sup>ヤ<sup>ル</sup>ウ<sup>ル</sup>ニ<sup>ル</sup>意<sup>ル</sup>シ<sup>ル</sup>イ<sup>ル</sup>コ<sup>ル</sup>モ<sup>ル</sup>ア<sup>ル</sup>ル<sup>ル</sup>イ<sup>ル</sup>ア<sup>ル</sup>フ<sup>ル</sup>タ<sup>ル</sup>ガ<sup>ル</sup>ナ<sup>ル</sup>ク<sup>ル</sup>バ<sup>ル</sup>

タ<sup>ル</sup>バ<sup>ル</sup>ヨ<sup>ル</sup>ソ<sup>ル</sup>ノ<sup>ル</sup>コ<sup>ル</sup>ト<sup>ル</sup>ニ<sup>ル</sup>マ<sup>ル</sup>テ<sup>ル</sup>居<sup>ル</sup>ル<sup>ル</sup>バ<sup>ル</sup>カ<sup>ル</sup>リ<sup>ル</sup>デ<sup>ル</sup>サ<sup>ル</sup>ア<sup>ル</sup>ラ<sup>ル</sup>ウ<sup>ル</sup>ニ<sup>ル</sup>ト<sup>ル</sup>也<sup>ル</sup>ハ<sup>ル</sup>ル<sup>ル</sup>

ほつゆき



以そけうとゆゑ乃中さ中々おんぼいあ〜とおんさうやハ  
 ○一ニナマナカニ一夏モ冬タウガナクハヤウニシイトハウウタイハヤウハフマイニ  
 夏系〜ゆき

君といへん足す後んぼまねりけいの先づしぎおくりゆるこねえ  
 ○夏士ノ山ノモエルノハジヤウヂウノデムツラシイトモナイガ ワレモオハノトサハ  
 イハバ 冬テモア Hydeモ イツアモフジノ山ヤウニ冬ノ景ガモエニス

伊勢

夏ふぶふふと白とハ〜しおあ〜こが面軽ゆるづる方おきば  
 ○ワレヤモウウランノ夏ニモニエルトハえラレマイズ 冬く焼ラエルニモ  
 キツウヤツレタオモカゲテ ハツカシイ身ヂヤニヨツテサ

う〜人〜ぞ

冬るゆくゝあけふ故ま〜りかく〜ハえめら〜るもあ〜る  
 ○一ニドウゾ又ヒツクシテ事テ付成リニサアハウワイ サテモノ〜ヤノ  
 コリオホイフカナ

いせあをけおるゆあおづ〜てあみ〜あ人を〜くは〜あ  
 ○上ドウゾぐ〜ウランニ存分ニハラバイ 冬ハレルヤウニシタイフカナ  
 冬あたるハ 冬食た菜々食た菜々 魚をもちよ〜あ 葉と回〜し  
 此あをどの冬あたるま〜く 冬夕の〜〜あ〜ハ 冬が〜〜ぞ

せ〜のり

冬あ〜るおむ〜く〜乃〜ら〜ら〜る〜も〜ら〜ら〜る〜も〜ら〜ら〜る〜も

○庭ノ夕チビイテアル山ノ橋ヲ見ルヤウデ  
サテモニアアカヌ君チヤフカナ

ぬうやま

んぞぢりりたつきおと思ひぬ。こゝものくやあーのるべき

○心ト云モノハ、アリナフヲ物チヤトサズル  
カウシテ居ナガラモヤツ  
ハリシイワイ  
ハズハナイニ

九何内、いつ

かきまてむ後をばきうで、交まぬふくも人のあひわゆるあ

○交シゲル者モ、冬ハ枯レルモノチヤガ  
ワレガ思フ人モ今コソアレ  
後ニカレテまノイテヒウデアラウニ  
サウ云フバガテニセズニ  
サテモく

交まノヤウニ味ウ畏レルコトカナ

イみ人ーいぬ

静る川あらしぬく、ゆるきなりと思ひそめてむ人ハ、こゝれど

○アスカ川ハ、湖がヨウカルト云フデ  
世ヲ入心モソチ物チヤト云フチヤガ  
タヒ  
ソヤウチ世中チヤトモ  
ワレハ、タヒ世ソチアラウスバ  
イヒデモ忘レハスマイ

室七お湯のめきさのいのもあけあかぬ

思ふておまけ紫のこや秋をへる色もうつぬおまのつらき

○ソウタイ木デモ葉デモ 秋ハ色ガカル物チヤガ  
秋ヲコレテモ 色ノカハラ  
又物ハ ワレガオマヘヲ思ウト云フ  
何ハカルト云テモ  
何ハカハルト云テモ  
何ハカハルト云テモ

○巻五

○三

類しらぬ

らむしあお衣くろしにひもやあなをらむひき後の格也

○今更モ草ヲトイテ フトシノ上へキルモノ片「カラ」後テ、あヲ待テ居

ルデカナアラウ 宇佐ノ格也ガサ 寺々く一昨の洗い

スきしらぬしゆるひめ

あやこひぬやゆゆひのつこよひふまもの板もさぐぬぬふらさ

○君ガクルデアラウもワガ行ウカト ぶんろふ合せて居タデ 戸モサ、ズニ子ヌワイ

そきいあ〜

今あひとひり〜つりあ長目おるぬ月減まらそでつる哉

○オウ〜ケン〜もあつとヌテオヨシバハカリニ 廿九月ノ末ノ取ノ長イニ サテツ

ホドニツホドニ オイヌのノ月ガハヤモウ出ヌワイ 約書モセナテ有ぬノ月サハ  
待カシタニ ソレサ待ツ人ハサテモノ〜書ヌ〜カナ コレハミアドウシタツ

よみ人き〜

月取より〜お〜とんおほまやら〜と〜あ〜と〜ま〜と〜あ〜あ〜あ

○今夜ハキツウ月ガヨウゴザル月ガヨウゴザルト人ノ取シラセテヤツタラソレハ

チトゴザレトヌテヤルモ同シヤウナモノヤ ドヤシラセテヤラウ オレモアミリ

ヨイ月チヤニヨツテ モレワセモセウカト

五  
一々ヌデモナイニ

月取より〜あ〜ハ月取より〜月取より〜と〜ま〜ゆる泡あ〜と〜ま〜あ

ま〜るゆ〜ををた〜やの〜と〜あ〜も〜は〜格〜あ〜て〜あ〜を〜あ〜あ〜の〜あ

さ〜り、こ〜あ〜こ〜ま〜し〜あ〜こ〜し〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ〜い〜あ

あじうんきことのもつう解き。まてうせあ。法匠みる後ほむ。

まらこむ。ハ福倉へともつうしこひうまにしがなゆひ小おんあくま

○君ガコスバイツミデモ圍ヘモイルマイ カウレテ外ニ立テ井テ髪ヘおガ

オクト云テモイトヒハセヌ ヤツリコ、テ待テ居ヤウ

ま塔野はなつうは小森あをありと風とやうでくちとてまて

○宮城野ノ本アラノ小森ノあガニサニ風ノフイテクルヲ待ヤウニサ

ワレハ君ヲツワイノ 4つうハ本どらけまぎうへびわう

生くるじうるあおなびまやうして結ふあけまにようじ。こ森

のこち小菫小葉あをのね乃小し。本菫おにうへび又わづき

てつお池のともてしちひえれをいあおれうへは。

あまあー今もえてーけふが乃かきやおもるやまやあでーこ

○ア、おレイ ドウゾ今モをタイモノチヤ 山中ノ家ノ垣ニヨウウマテアル

アノヤミトナデニコノヤウナカアイルインソコニサ

はのふ乃あふを思ひていーあのを。おあをえむあつあのこーそ

○一 ちるヲモホカノヲハセハセヌ タゞをタイクトンバツカリヲサ 三 じヤウ

チウワレヤオマテ居ルワイ ともおハあひえむへくまふあふびといお

ああいつまじ。上の思ひごとくあつ下へつうせてああいつまじ。せ

ほくゆれ

まきーぬのやまをまきうへぬー衣らあもへてまきうへぬ。

○上 ドウゾアヒナニヌ又アウヤウニシタイコチヤ

ぬやぶ

えーなほくがねづけ、むこねむねをさふつべうとらふ

○まレイナド、云名ハ、タレガツチタフヂヤラ ソチニハリドホイ名ヲイハ  
ウヨリハナニカナレニ 死ヌルトサ スグニ云々ガヨイワイ キツウ云々ウモフトキ  
ニハ 実ニ死ヌルヤウナワサテ

よみ人ーんげ

みよりせむ大川のべ乃 夜あま乃 ねむお思つてねがこひめやん

○上 一トホリニモフコナラ ワレガハヤウニヨヒニウカイ 一トホリクテハナイワイナ  
かくこひを物とハ、ねも思ひいりきむ乃ううぞほさうのりりる  
○サイレヨカラサ 後ニハヤウニ云レカラウ物ヂヤトハ ワレモ思ウメフヂヤ

サイレヨノワレガ心ノウラナヒガヨウ合ヌワイナ

云の糸ぬをそほろく ねる神も思ふおはるげむとらものうは

○神ナリト云物ハヨニオソロレイ 何デモタミラヌケレカラヌイキホヒナ物ヂヤ  
ケレド ソレデモ人ノ思ヒアウタ中ヲバトホリケルモノカイ ソチナカミナリサヘト  
ホノチハセヌコナド ネットに何るガアツメトテモノクコテハナイワレヤ

掙らうひききゆのほら 来つひふるが思ふ人いおとのまきむ  
○一ニ 末デハドウデ ミカハヤウニモフ人ニ名ガ立テイロクトウワサガ  
レケウナルデアラウ

けうこはらう人あまねみくきのあふとねくね  
へうねひくすとねひやん



交り乃ちひきめ糸織り入り〜と云づくも織む〜と云ふ

○タトヒせるノウサハドノヤウニシゲクゴザリニセウトモ 一ニ イツニテ

モワタレテ絶<sup>キ</sup>ウトハ出るテトサリニスナ

らり〜とハ長くつきて〜と云き〜と云ふ〜

此方ハ〜と云ふ〜と云ふ〜

里人乃ち〜ハ交りめ糸織り入り〜と云づくも織む〜と云ふ

○人ノウサヲハカツテ 君ハトホノイテイクガ 在<sup>ニ</sup> 耶<sup>テ</sup>ノウサハタトヒ

交ノ地ノ草ホドシゲクモ オレガ草<sup>ズ</sup>ニ居ヤウカ コレカラトテモアハズニハ

オクニイ 飯材流る〜と云ふ〜

菘糸紋織り針糸は入りむの針居糸織り入り女をわ

ひきめてぬ〜と云ふ〜  
オワケ糸リムカ アメアリムラ  
デカケニク、ハユエハシ合セ居ヤム  
〜と云ふ〜  
〜と云ふ〜  
〜と云ふ〜

かど〜と云ふ〜

○ワタレガコヲシセツニ思<sup>ニ</sup>テトサルヤラサウモナイヤラ おもくむ ソコノホドハドウモ

キハタバシガタサニ コヨヒノ織<sup>ニ</sup>テソレヲ考<sup>ヘ</sup>テ又<sup>テ</sup>ソレデワレガ身ノ仕

合せ不仕合せモレレルヤガ 五 ソノ織ハサ 五 けヤウニ長<sup>ク</sup>ト大<sup>ニ</sup>ブリニナリニス

コレデワレが不仕合せモレレタチヤワイナ け織<sup>ニ</sup>テワレが身ノ仕合せ不仕合ヲ

知ルトヤスワケハ 一<sup>ニ</sup>アタビ今ノ織<sup>ニ</sup>ハノ織<sup>ニ</sup>ナバ け織<sup>ニ</sup>ガ止<sup>ニ</sup>ダナラぬ出

ガアラウレヤハリフツタラぬ出ハアルニイデヤ スレヤけ織<sup>ニ</sup>ハワレが身ノ仕

合ふ仕合ノニレルぬチヤワサテ

うきくふといふ相法悦みる

わきとびいさハ倍々倍切ふといふわきつてそのまらぬくといハお

のまきといふまじまじとちふぬぬきハいふとつきいふぬきとさの

ぬきとさといふつふふよと又さしのまきといふまきとさき

ハさくのほく切さつばいへといふまきといふまきといふまき

このかおも此何とあるとちふとさきといふまきといふまき

ある女乃ぬりひりぬぬきといふまきといふまきといふまき

まきといふまきといふまきといふまきといふまき

大ぬきといふまきといふまきといふまきといふまき

○後ノ時ニ大麻ヲアミテ人が手ニ引ヤウニオハハ近イコ只方カラヒツ

此薬がまウツ多バ 昔元色也ワハドウモオハヲ頼ミハサ エイタサヌワイナ

かへー

なるまじりの船長

おやぬきといふまきといふまきといふまきといふまき

○サアワハソノヤウニ引人が多イヌサチヤト 名ヨソヌテラヌレ 大ヌサハ

川へ流レテユクケド トコソデハ流レテヨル系ノ船ハアルト云ノニ アニリソノ

ヤウニ大ヌサチヤクト云テトサルナ ワレチヤトテ来デハドウデヨル所ガ

ナウテハサ ソノヨルハオハヨリ外ニアロカイノ

歌とつとむ

よとく人エとむ

波ノのちふれいやく煙風波いふ思ぬ方ふいぬりあつと

○スミノ浦ノアミノ塩ヲヤク煙ガ風ノツヨサニワキノ方ヘナビイテイク

ヤウニ ワレガセフ人モ 世モヨラヌ人ノ方ヘナビイテイタツイノ

あかづらふ本らまふおわりぬきばいぬんのおれがどなり

○オハハテウド カツラノアノ木ヘモハヒカルヤウニ アチコチトオカ

ヒナサル取ガカクニテチ多バ ワレガカヲタエハナサライデモ ソノタエヌ心ガナシ

ノウレレイヲモナイ

いぬがゆふよがどいしてうぬまうらうもどふゆきうらうきとる

○夜中ニアレ郭ガツイコトデサウツ声ガスル イツモトニル里ハトコノ里カニラヌガ

ソノ里ヌ今来ハトニルヲ一夜カメツラレイコチノをテ寐ヌトミエルア

ソコテ子テ井ナク声ヂヤ 一コハハド熱ルけあぬぬいこふ入

をほたるべいゝゝのゝととてハ ぬるぬるおとるといふとや

あしが〜 ぬるぬるのゝとと〜 ハヒビ〜 ぬるぬるのゝとと〜  
うらまはぬき〜 ぬるぬるのゝとと〜

いぞんをあ〜 のゝとと〜 ぬるぬるのゝとと〜

○イヤモウト云モノハウツロツカリナ物ヂヤ 三ウツ多リヤヌイバ 呼ウツハキツイチガヒテサ

いぬをぬるぬるのゝとと〜 ぬるぬるのゝとと〜

○誰ウツデモロバ嬉シイコヲ云テクレルケド 皆ウツデ子カラれニハナラヌガ ウツ云

コトノキイ世中デアラウナラ 人ノ云テクレルケド ドホドウシイコデアラウツ

いぬをぬるぬるのゝとと〜 ぬるぬるのゝとと〜

○ウツヂヤガトハ思ヒナガラモ コレウツデれニ思フテ居ル人ノ云フナレヤ ワレヤヤツ

ハリンヲれニ思フテ居ルヲノ タトウツト外ニモコトナ人がアツタトモ 今ラサラ心ヲ

多シテ 誰ヲ殺シニセウゾイノ ワヤトツトサウ云ハナイ

素性法師

秋風ゆるらるるはものうつろへむ人乃こつ海もいづもぞおもあ

○叶ゴロノ秋ノ風ニ山ノ木ノ葉ノ色がカハツテチツタイクヲ足レバ 人ノ心モド

ウアラウヅカハリハスミイカトサ キツカヒニ思ハル、

寛永拾遺集のよき言はきり やまのり

探は考きくげばうねりあま夜うそくや人のねむり思へむ

○探ノ唱声ヲキケルモウオツケ秋が近イト思ハル ねニ思ウ入心モ 秋風が別ツ

テ心ザガけ弟ノ交夜ヤウニウスウチデアラウカト思フデ カナレイライノ

餘材説あゆりうづ〜交夜〜つてハ探のねむのねとあひて〜

くまくといふし料の梅河の〜 赤葉説ニのふうねるも。

歌うづげ よ〜人〜

くつき〜はよの人〜のちげ〜とバ〜と〜寝ぬもの〜か〜ぬ〜

○一 世る久ノウ昇ガレバ、ワレ忘レハ世ヌナガラ オウカラトヲクデアラウマウ

ト思ハ、 又人ヲワスレハ世ヌナガラ オウカラトヲクデアラウト思ハル、

あぐて〜と思フ中ハ〜おきねも〜後ノ〜と〜れ〜

○也フ中オラタガニアキノコヌウチニサ ハレテヒバウ〜ガヤ ドウシテモ久シウナバ

ルキノクルナヒナバ、 せメテ今ウケタガヒニアカヌトコロヲナリル 後〜ノ思ヒガシ

ガサニシテサ ハヤアキガキテカラハレテハ何ニモ思ヒガシガモナイワサテ

餘材〜と〜終〜と〜みの説〜

こころをばさしとせむのつくろふまじりよりはまづかきし

○コチウヤウモナイ人ヲ思ウテハヤウニ心ヲ苦シメウヨリハ

ヘハヌドウヤラ心ボツウナツテ今テヨリハホキツウカサレイ

サウ思フ心ガツクカラ

シテまがハヤアハヤウニカナレウテハトテモワスレテハルコトデハナイ

○ワスレテハウト思フが必ズオレヲ恨ムナヨ

秋ニナラヌサキニ早ウドコヘカ

イニデシマウヤウニオレモ人ノ秋風ニアウトハ思ハヌ

○タエズ流シテニヨドガクイハ赤も川ヨドニダヤウニオガモシタラサレツ友デ

モアツテヌハヌガアツタラナズ心ニナラヌヤウニカノ人が思ウデカチアラウ

田の中まはるるやとつふまて田中まはるるやとつふまて  
やのどいへはあちまのむしとつふまてふまてこし此ちまのむし  
がこむしむしとつふまてあちまのむしとつふまてあちまのむしとつふまて  
此ちまのむしとつふまてあちまのむしとつふまてあちまのむしとつふまて

度川乃よどむしと人を思ふるむしとつふまて思ふるむしとつふまて

○けろワレガエイカヌラ川ノヨドニダヤウニナヅトゴホリガアルト思ウデアアラウ

ナレバワレヤ未也ウイツテモト思フ赤イ心ガモノナシトゴホリガアロソイ

素性法師

そらひるまじりやとちまが山川の浅きせおろそろど辰ハとして

○山ノ川ノ浅イ瀬コソザウクト辰ハタツモノレ底チイヤウチ赤イ瀬ガサワ物カ

海イ瀬ハカクササウキハセヌ テイトソチモデ シビツニホウ思スハロヘダレテ  
何トモイヒセヌ シビツラレウチニカイトヌハ ソヤケツク心ノ儀イアガ辰キヤ

よき人〜らじ

くまぬわたり川花ぞもれ色ぬく思ひ〜 ひとれ〜それとや

○一ニ サイレヨカラ深ウ思ヒソメタ心ヲ ドニチノガアツタトテワスレウカ

ワシヤイツミデモワスレルコトハナイ

かた〜はたた

みちのくはきのぶらむらむらと惟ゆ思ひぬき〜 ひとれ〜それとや

○一ニ タレユニ外ヘ心ヲチヲサウゾ オヌヨリ外ニ心ヲチヲスラレキヤナイツエ

志のぶらむらむらの後 歌ほよ〜 打つまら〜

よみ人あ〜げ

思ふ〜らむらむらふきよとら 秋風〜 ねび〜 浅芽は色よ〜 小那 ぬ

○ワレハコレホドニホウ思ウニカハクエラトウセイト云ラデ 三四 人ハ心ガハ

リノシタコゾ コレホドニ思ウケウヘハモウドウモシヤウガナイ

ちびねつらふ〜 つらめど〜 ね〜 ね〜 秋のね葉あ〜 ね〜

○人ノ心ハアチヤコチヤイロクニウツルデアラウケレド 心ハね葉キヤウニ色ノルニエ

ル物デハナチレバ ムツロウガシヌ 飯材神の洗とら〜 打つ崗よら〜

小野小町

あ〜ね〜む里のま〜 べあわ〜 ね〜 ね〜 ね〜 ね〜 ね〜 ね〜

○海をノアマノスム里ノ案内者ニコソ 浦ヲスヤウトハ云ウダノコナ

ワレハツチ浦ノ葉内者デモナイニ ドウ云フデ ウラニヲ云ウウラニヲ  
云ハトバツカリヒタモノ人ノイフコヤラ

あもつげねをひま

くりり日の親よりお色係にぬるもバ先おアも足し係をばうねま

○ソラノクモツタ日ニハ 人ノ親ノアツテモ又ヤウチモノデ ソレト目ニ又エコ  
ソセ子 ワレハ色ニヤセホツテバヤウニ親ノヤウニナルホド也フコトバ 人ノ親  
ノ身ヲハナレヌヤウニ心ハビヤウチウ也フ人ノ身ヲハナレハセヌ

ほろゆき

名も色なきも人おそりよりうらつむとハありやしき

○色ノアル物ナズコソ ウツロウテカハリモセウチレ 人心ハ色ハナイモノナレバ

ソノ色モナイワレガ心ガカ久ニレミコシダカラハ イツデモカハラウトハ也ハレヌ

よみ人まつごと

先づしき人をえむまやまうとせぬと下紐のときとらむ

○久レウアハヌメヅラレイ人ニアハウトテヤラ 五らん サウレモセヌニ ワレガ下紐ガ  
コノゴロハ こころ なくヨウトケル 子林云 諱小サウレモセヌノニトウハ  
即下紐をさきもせぬふといふこと

○一 サウカサウデハナイカ モウニワスレタラ井チヤ サテモく 三 久レウ

アハナシ人ヲ見バ イセテるカヒヒササレテ 候ガサコボレル 田の匂云候  
又恥恥不ふあう人えとバとつとどようしき 子林云 此条のちれぐみことふ  
ふ一はとこしみとをいひたり  
ほりえとくもあうをわいこぎうり日ト人おやあはらむ





てよみうららるる

典侍藤原よるかの娘た

ゆのえあゝいなき葉今ハうへてむいぬあゆるときはあきどるあゝ

○コレニデイロくと末程モレサウニオツツヤツテ下サレタぬみドモ、モウ

ハモドレヤレニセウツ ワタシガ身ガけヤウニアカレテニウタヒバ 今デハモウ

けヤウナぬみナドハ けまハオキトヨロガゴザリニセヌ

ぬるまハもあるまればしふりぬまハハ異じ

かゝるゝ

近院君のおやいまうら君

今ハとてうへてそのもむらひあきておのが袖うらぬえらやこじ

○モウハト云テカヒテオヨサレタけぬラ ヒロウテトツテオイト モト自か

物ナガラモ ソナタノ形ニヤトモウテニセウカイ

むほこねさつ

よほみけの娘た

玉ほこねさつゆいもまどいなるき人そらあそとあつとあつむ

○オマハ今デハ 毎夜ぬをヒナサル取カ外ニアルチャガ タゞく今夜コレぬ出

下サレタハ 定メテ道ヲトリチガヘナサツタテアラウチヤヒヒ けウトテモ イツテモ

コヨヒノヤウニドウゾ道ヲトリチガヘテぬ出下サレバヨゴザリニヌ ソレタラ餘ノ人

ノ取ヘぬ出ナサルノデモ 実ニワタシガ取ヘぬ出下サレタノカトモヒニセウワサテ

よみ人うららげ

やそといとを祓てとゆるおせもしてゆく弱の足なれまへのとを捨

○ニアヒラクトヤスカラニハ コヨヒハトマツテモイニデ下サレカレ ソレハナ

ニゾヤトリイソイテトツカハトイナレハ サアモくキコエニセヌ カウレテ



○ 定ハ急シイ人ノ形見カイ 形見デモナデモナイニ ドウモコデ急シ  
ラモウタビゴトニケヤウニナガメラル、コヤラ

よみ人あはれ

わふまでけうくこととをいふをいふふえてもいふけいふふふふ

○ 又アウニデノ形見ノ物モナニセウソヤクニタヌオチヤ コレラニテモオ  
レハ急シウモフ心ガ子エカラヤスニルコモナイ

あやのあひり<sup>ツイテナル</sup>とゆる人のむとめおいらのむとめあひてお  
らひひらけけいふおやのよぶといひらき<sup>チラニハヤハカルトチ</sup>バ  
いふとけいふむとめおいらのむとめあひてお  
らひひらけけいふおやのよぶといひらきバ  
いふとけいふむとめおいらのむとめあひてお  
らひひらけけいふおやのよぶといひらきバ

わふまでけうくこととをいふをいふふえてもいふけいふふふふ

○ け裳ヲノコレテオカシヤツタハ 定メテ又急ニテノ形見ニ見ヨトイハ心  
デコソゴザラウガ コレラニシバ オハノミガヒダサレテ 海カナガレチサ

海ノ浪ニウク藻屑ノヤウニ 海ニウク裳チヤワイノ

形見ハサ

よみ人あはれ

わふまでけうくこととをいふをいふふえてもいふけいふふふふ

○ 形見ハサ<sup>カク</sup>今デハモウ ニクイカキチヤワイノ コレガナクバ ヲリニハヌスレテ井  
ル時モアラウ物ヲ け形見ガアルユエ 定メテ急ニテノ形見ニ見ヨトイハ心

古今和歌集巻第十五巻終

意あり

五條のきよふのまはれやけしむいふ住り人おほいふハ  
ナウテ  
ついでぬいひらふらさばむ月おとさうらまひあむじや  
久うとあらゝあるとあまきうらさでえいものもいで又の  
トシ  
うはち梅は花さうりゆ月のおちうらさるる春こそ  
らひくかのあの一いきて月おとさうらまひあむじや  
いこぎふぬきりしよあ。 在系業お初は

月やつらぬまやきけまおけぬあまむらうらまはれうあして

○今更コへお居て居てバ 月がモトノ去年ノ月デハナイカサ 月ハヤッパリま

年ノトホリノ月ヂヤ 春ノ年ガモトノ去年ノ春ノケキデハナイカサ 春ノケ  
レキモ梅ノ花サイタウスタドモ ヤッパリモトノ去年ノトホリデ ソウタイナニモ  
去年トチガウタノハナイニ タバオガ身ツツカリハ 去年ノ身デアリナ  
カラ 去年をタ人ニアレイデ 今時トハ大キニチガウタノワイノ サデモク  
去年ノ春ガモトイ 二つのやハやもはさじさも能白のトへ  
りけやうやもつらぬさうねいふさばあさうらめぬく先  
うらこハ月やおあぬまやのあぬ月もまもわけけまうらるあ  
とつら上かきせしうらまへて此船はあつらふんあまひて何  
うらびいしやがはさうらまへ 梅枝はさうらとふらうら  
かの説がいはうらまへてさうらまへてさうらまへてさうらまへて

うねるように伊のりきちんをうらなしてんねまあぞかし

歌一しんじ

藤原のりむらねおと

花さうにあつそつお思ひしうちおとて人うむさぶどおりり

○内々おこソをウトモウテもんで居タニ ソレニアおガオモイハムカフ

ニナツテ 花落ノ穂ニテタラ結ニダヤウニ オモテハレテ外<sup>ホカ</sup>人カトリク

ニテをテヒウタヲイ 心<sup>ココロ</sup>念ナクヤ 花落をむらむら伊勢

おまはひあはれうの河おんして餘情あふりて

後系かひまきの船店

よまおのときさうあーおをきお川うらるとねーおみるまそりりむ

○タビヨロニバカリヤテ居ヤウデアツタモノヲ 三アウテモナレニ ナニニヒヤクニナレ

ソメタコヤラ ナニニナチニテソレテまじヌハサテクツライモノガヤ

凡何思みつね

こがご〜おはらむ人もうねるもやうねるおはらむらうとび

○サテクウイコヤ オレハコホド人ヲ保タスニ 人ハトカクソホドニウテクヌ オレガ

男ウトホリニオレヲウケテ人カアトシ ソレモヤハリヒヤクニウイモノカ タメシテ

んヤウニ 世ハ男お中さうおと

おやまか

ひさか〜おあつておももあはれ〜お人ちよまおぢあはれ〜おんね

○天ニ住テ居ルワレデモナイニ ドウシタカ 人ハワシヲトホヨソニサウヤウスニ

オモル

えてとまうと文も足すくはちうれづれやうと人まいつるおぼろくまうと  
○オレハ逢テモノヤツリヌアヒタウモウニ 人ハ修メナレノライヤガ  
ルヤウスニ足エル 足すくはちうれづれやうと人まいつるおぼろくまうと  
とりぬまうとちきまうと此格おぼろく

きものまうと

ちうとぬくちうまうとちうまうとぬくちうまうとぬくちうまうとぬくちうまうと  
○雲モナウテ風モナイデアルぬハヨウ暗テアルモノチヤガ オレハソノ  
ヤウチモノチヤヤラ 人ニイトヒキラレテハツカリ「生ラタテル カウタトハ  
テイフワチハ 甚暗ト<sup>イハ</sup>厭ト<sup>イハ</sup>何ガ同レ<sup>イハ</sup>チヤニヨツテサ 哥ト云物  
ハアチナ<sup>イハ</sup>ヲヲヨムモノチヤナイカク

ちきまうと

花ぐさめぬくぬ人乃あまうちうまうとぬくちうまうとぬくちうまうとぬくちうまうと  
○一 ホカニイクタリモヨイノガアルナレバ ワレガヤウチ人カズデモナイ身ハ  
ワスレラレタデアラウ  
うきまのちあひてなぐさ 痛まればおぼろくまうと人まいつるおぼろくまうと  
○ナニツケテモウイコトバツカリデ泣テクラスワレナレバ 思フ人ノタメニニ  
エルノモ タバカリソタニロフサゲニチヨツト立ヨラルバ、ガリノ<sup>イハ</sup>テコソアラ  
ウケレ<sup>イハ</sup>コトノ心サレデ足ルノトハ思ヒヌ

ちせ

あひふらしてお思あうらぬお神おやうと月まうとぬくちうまうとぬくちうまうとぬくちうまうと

○ハヤウニ物思ヒラシテ後デ袖ノヌテアル時チヤトテハ袖ヘウツク夕月

ノカホミデガ ワレガ執トヨシヤウニ ヨウソロウテヌレテヌエルコトイフ

あしあししては後餘材もほしー 折ゆかもそれを入るをこぼして  
け何れもこゝろとくかこゝろよくういふはしてはドヤウノ物もこゝろ

よみ人あはれ

秋うらでおくふ春もも福ぞめまるとぐも物のまづくねりくる

○ニあハ秋ヨウオク物チヤガ 秋デナニオクあガアルソハ 抱思ウテ夜

判ニ目ヲサニニテ居ルワレガ抱カラ床ヘオチル後ノキトチヤワイ

さぬれあはれほやまきあうもまきあわくみまどわおれとやあうまきあ

○上道ノアヒガがまきイユカシテ 一テ片く一ははあナサラヌアハオクイコチヤ

上白けまき餘材のゆー

この秋云々の物の俵まどわおれとやあうまきあ

ふーろの後乃こゝろとくかこゝろよくういふはしてはドヤウノ物もこゝろ

○一ニセメテカリソメニチヨツトサヘおテクヌ人ヲれニ思フテ居ルワレ

ハサアハラチノアカヌ心チヤ

あしあししては後餘材もほしー 折ゆかもそれを入るをこぼして

○ワレガ中ハ水ノナイト云々新川ノヤウチモノデ 遠くガナチバ 夕

色シイコトコソマサレ 水ノマサツテ涼イヤウチノハナイ中チヤニ ナニシニ末カ

ナテ深ウワレハ思ヒソメタコチヤラ

曉の晴乃もろくがれもくもがきあうもまきあわくみまどわおれとやあうまきあ

○曉ハ鳴ノ八子ガキト云テ 晴ガキツウレダウ羽々キラヌル物チヤガ 君ガコヌ夜ハ

ソク時ノ子ガキホドシダウワレガサイクニトナレニタメ息ラツイナデキマス  
此方下句のまじらんてゑいふん<sup>ヤ</sup>。敷くといふまゝの時の百ほふの  
の酒よりいづつのもをていへる<sup>ハ</sup>。敷きまゝておとぎこ<sup>ハ</sup>。  
あづづ<sup>ハ</sup>今ら<sup>ハ</sup>もまや吹風乃き<sup>ハ</sup>と人乃き<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>せ  
○一モウハキレテミウトヤラ<sup>ニヤ五ん</sup> けゴロイカウ三オトツレモセヌ  
コトグ神<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>れ<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>は<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>は<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>が<sup>ハ</sup>ん<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>き<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>  
○マダソ<sup>ホ</sup>の<sup>ホ</sup>め<sup>ホ</sup>デ<sup>ホ</sup>モ<sup>ホ</sup>ナイ<sup>ホ</sup>ニ<sup>ホ</sup>ハ<sup>ホ</sup>ヤウ<sup>ホ</sup>ニ<sup>ホ</sup>ワレ<sup>ホ</sup>ガ<sup>ホ</sup>神<sup>ホ</sup>へ<sup>ホ</sup>ぬ<sup>ホ</sup>フ<sup>ホ</sup>ツ<sup>ホ</sup>タ<sup>ホ</sup>ハ<sup>ホ</sup> 君ガ心ニ神ガ  
キタカシラス ソレデハ神ノヌタハ海ノニゲレヂヤ  
山の井ぬわきんも思ひぬ<sup>ハ</sup>。 ねむりの人乃<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>ゆ<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>さ<sup>ハ</sup>  
○ワハ山ノ井ノヤウニ侍イ心デハナイニ ドウムコデ君ハ イツ<sup>ツ</sup>モ<sup>ツ</sup>ね<sup>ツ</sup>ガ<sup>ツ</sup>リ

ヌメテヨリツカシヤヌコヤラ ねむりの人乃<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>ゆ<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>さ<sup>ハ</sup>  
相<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>わ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>び<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>ね<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>  
和<sup>ハ</sup>ひ<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>は<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>さ<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>さ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>  
○ハヤウニキツウきコトノナリニクイモノヂヤト云<sup>ハ</sup>ヲ<sup>ハ</sup> トウカラシツタナラ  
忘<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>ノ<sup>ハ</sup>父<sup>ハ</sup>子<sup>ハ</sup>ヲ<sup>ハ</sup>ト<sup>ハ</sup>ツ<sup>ハ</sup>テ<sup>ハ</sup>オ<sup>ハ</sup>カ<sup>ハ</sup>ウ<sup>ハ</sup>デ<sup>ハ</sup>ア<sup>ハ</sup>ツ<sup>ハ</sup>タ<sup>ハ</sup>モ<sup>ハ</sup>ノ<sup>ハ</sup>ヲ<sup>ハ</sup> ソレタラソレヲ<sup>ハ</sup>時<sup>ハ</sup>テ<sup>ハ</sup>ヤ<sup>ハ</sup>レ<sup>ハ</sup>テ  
けき中ニ<sup>ハ</sup>タ<sup>ハ</sup>ラ<sup>ハ</sup>ワ<sup>ハ</sup>ス<sup>ハ</sup>ル<sup>ハ</sup>ヤ<sup>ハ</sup>ウ<sup>ハ</sup>ニ<sup>ハ</sup>セ<sup>ハ</sup>ウ<sup>ハ</sup>モ<sup>ハ</sup>ノ<sup>ハ</sup>  
くもさごころはあはれさきいとまほふまはふさへやあひま<sup>ハ</sup>  
○ナボ<sup>ハ</sup>念<sup>ハ</sup>し<sup>ハ</sup>ウ<sup>ハ</sup>ヒ<sup>ハ</sup>ウ<sup>ハ</sup>テ<sup>ハ</sup>寐<sup>ハ</sup>テ<sup>ハ</sup>モ<sup>ハ</sup> 羨<sup>ハ</sup>ニ<sup>ハ</sup>モ<sup>ハ</sup>ウ<sup>ハ</sup>ト<sup>ハ</sup>ス<sup>ハ</sup>ル<sup>ハ</sup>夜<sup>ハ</sup>ノ<sup>ハ</sup>ナ<sup>ハ</sup>イ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup> カ<sup>ハ</sup>久<sup>ハ</sup>ガ<sup>ハ</sup>ワ  
シラ<sup>ハ</sup>忘<sup>ハ</sup>レ<sup>ハ</sup>タ<sup>ハ</sup>ラ<sup>ハ</sup>ス<sup>ハ</sup>ル<sup>ハ</sup>羨<sup>ハ</sup>ノ<sup>ハ</sup>名<sup>ハ</sup>ヘ<sup>ハ</sup>マ<sup>ハ</sup>デ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>エ<sup>ハ</sup>レ<sup>ハ</sup>ガ<sup>ハ</sup>ツ<sup>ハ</sup>タ<sup>ハ</sup>カ<sup>ハ</sup>シ<sup>ハ</sup>ラ<sup>ハ</sup>ヌ  
羨<sup>ハ</sup>に<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>ゆ<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>ハ<sup>ハ</sup>お<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>を<sup>ハ</sup>羨<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>人<sup>ハ</sup>ヤ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>



○羨ニサハアハレヌヤウニナリテキタノハ  
ワレヲ忘レテ心ガカヨハヌカ  
綴材ニありておちあふらぬ。

あんなきんは作

もはるゝもまふえんくばちうゝに思ひぬ中ぞうほきかりなる

○唐ハキツウをイ取チヤトオテ居ルニ  
ソレモ羨ニ足タレ近イコデアツガ

トカク唐ヨリモドコヨリモ  
まいのハ又中テサゴザルワイ

こごのくがる

むらりのとねがめぬるをけつぬねとバ人をまののおほきをどあひらる

○長雨ガフレバフルイ家ノ新ハ  
クサツテ思慕ガハエビルヤウニ  
タツタヒリ

おとせのしんきなナガバツカリシテ月日ヲオクルワタシナレバ  
人ヲ恋シテ心ノ

思慕ガサシデウナルワイ

傍心通照

こがふやうハそくもねきまごうとあつとつとねき人をまらとせしおふ

○心ツヨウテ特モセヌ人ヲ  
クルカクト特テ居タニニ  
ツイ月日ガタツテ

コチクをハ慕ガアノヤウニシガツテ  
道モナイホドニアシタワイ

今うらむしついであふりうらむしついであひらしは縁をのぞきぬ

○チタイウキニ又取ウトマテ別レテイダおカラシテ  
毎日まへノバツカリ

おとせのしんきなナガバツカリシテ  
ヒグラシノウラヤウニ  
おとせや泣テバツカリサ居ル

あんなきんは作

おとせやとはあふものうらむしついであひらしは縁をのぞきぬ

○ナニボ待ッタトテモウカヤ クルコトハナイトハ思ヒナガラモ 夕カタヒグラ  
シノ鳴ラジブンニナレバ 門カド口へ出テ立テ居テハ モシモヤト待ッ心ガアツテ  
ドウモ思ヒ切テハ居ラヌ

今一いともびふーおをさうぶお衣ーかかおとぬと涙いものむる

○カウスシウホヌカフハ モウハト思テ カカトヒテカカトヒテ思テ居タモノヲ

蜘蛛ノ糸ガキルモノヘカハツテ ドウカ又おシノアルヤウニ思ハセルハ蜘蛛ガ

蜘蛛ノ糸ノキルモノヘカルノハ 待ッ人ノクルニラセガヤトヤラ云フガヤニヨツテサ

ままいごとと思つやものうらぬまれつーゆらうーおまきごもやまぬら

○モウホルコトハアルマイト思ヒナガラ ソレヲワスレテハ又シテハ待ッ心ガマダ  
マアヤマヌフナサテモク

月夜いこのぬ人まうさるかまらりりぬもぬらむびつーも福サ

○ハヤウニサヤカナ月夜ニハ 事ヌ人がモシヤ事モセウカト待ッレテキガ

モメル イツツマツクラニ曇ツテぬガアリドモスレバヨイニ ソレヲツツナイ

チャト思ヒくモ寐テシハウニ

うゑていつい秋田かまきでんららバウとゆるの福まきおまぬる

○五月ノコロハ田ヲウエテオイテイシダ人ノ ハヤウニモウサ田ヲ刈ルジセツニ

ナルミデ 待ッテモくワセ子バ サテモくナサケナイ人カナトオモハレテ

ケサ始メテ雁ガナイタガソノ雁ノヤウニサワシモナイタ

おぬ人をすのりタごこの秋風らいつおぬけバウらびーかきらひ

○コヌ人ヲ待テ居ルユウウラ秋風ハ ドキと吹コトデ コレホド悲トイツツナイガヤラ

久しとかなりふらふかき位のは乃すつハクニ此おうごきき

○ワガ思フ人待テ急タハイツクテアツタヤラソカテ一向ニアズニマアク

久シクツタカチ 待モセヌ人ヲ待ツハサカク名ニイ物テサザルヲ

久しくとつふお位のはのねといひまねを人ますらふといひをまじ

かよみのおおきき

まみのえおきつやど久よなるをぬきわいづの縁おあぬ日らあし

○コヌ人ヲクルかくト待テ居ルるが久シウツタレバワレハ毎日ナカヌ日ト去ハナイ

おうじくのねたつひまりして結るくけくまかとおまり

おうじわちぐやまやせつううお侍らまもへまかるとて

よきてはくうりう 伊勢

かきお山いふすちみむ事ぬるとるゆる人もつじらおりんを

○ワタシモモウ京ニ居テモオモシロウナイヨツテ けな大和へトリマヌルガ

三峰ノ山かトムライキマセト古哥ニヨニデアルヤウニ 今カラアノ筋デア

シイ人ヲ待ツタトテモ 何<sup>ニ</sup>年タツトモ だ<sup>ニ</sup>モ尋マテ事テクル人モアル

マイト急ジスレバ ドウシテマア待チラセテ急レセウゾイ

野々 中林院のみこ

吹まうふせをををを秋暮乃うつりもゆく人の心の

○アチコチトフキミヨウ野ノ風ガサムサニ ぬノ花ノチツテユクヤウニ ヨリ人あ

テヲカミア 人心ガ 飯材さうし打はさうし

そのあすち

今うそしお身時ありあをぬきばはるのそまおふちひふり

○ワシガフルツタレバ モウヤトモテ マカオツツタは物本は海ニテ

かまウテもツタワイナ 時西ひちりといひ又こそそらうや

いし料あり

。子ねえびちハニニ一四あと  
白をふきしらうべし。

うへー

小野のしなだ

人を思ふんこのあわづき風はまふくちりおもひもめ

○人ヲ思フ心が本葉ナラバコソ 風ノフタニシタガウテチリミダレモセウチレ

ワシガソタヲ思ウ心ハ 本ノ葉ノ風ニチリ乱ルヤウナカルぐレイ心デハナ

ケレバ 何れがアツタトテモ ナニノメツタニカハラウソイ

なりひののちまのちをほくむきまをいし

ノ西カヨヒケルガ

さうらむのうまてきま〜おわひごのうまそゆ

イツテモカヘリケレハ さうらむのうまてきま

あをきしはよそふも人乃おりゆくらほまがおもあつあつ

○夜ノ雲ハ目ニハスエルケレモイヨク物チヤガ オハモチカゴロハテウツレ

デ 昼ハ出ガアツテサスガ目ニ足エハニナガラ ヨソクシウカテマア

子カラ夜ルオトリナツツテ下サルハナイ サチモくまエセヌナサレカチカチ

のるー

おりむらねた

ゆきしりあふの〜あまのくぐあふの風もやと

○ワシガあまニタトヘラレガ ナホドヨイタヤチヤ ちんちんヤウニロガイ

タリキタリツカリシテ足ヲトメズニタテルノハ ちんちんカッテ居ル山ノ風

ガツヨサニ トビツテ居ルノチラヌヤウチモノデ ワレカカツテ居ルソナタノ心ガ  
ミツクサニ ドウモ夜ハトミラレヌギヤロイ

歌  
歌

おまけのあやかし

きんぬきバカアツキをまつつとせうきそのとやハらしきと思ひ

○キルモノハ着ナレバヤハラカニテ身ニヒツタリトツキミツハレル物ナレハ

ソク垂リニ人モ ナレタナズ身ニシシウコソナラウハズナレ ソレニ列テカラモヤツハ

リヤウニヨソクシウテ ギヤウヂウ心ニカケテモウモテダツカリ居ヤウトハ

モウタフカイ ナレカラモヤツリヤウニアラウトハモハナシダ

うとのり

秋風をよびてしとせうきお人のんりしとあやかし

○秋風ハヤヤチナドヲ吹ルヤウニ 人ノカラダヲ分テ腹ノ内ニ吹テハイル  
モノデモナイニ ワガタスノ腹ノ内ナ心ガ 風ニホホノクヘキルヤウニ ヨソヘ  
ウツタハドウモフヤラ 上の流 鮎材チチチとあやかし。かの  
流どもねてしとせうきお人のんりしとあやかし。

源宗干抄

はともねくをさゆくのちねあそび秋のりしとあやかし

○次オニツチウナツテユクスノ相ナ 秋ヨリサキノお葉チヤワイ ナセトイフニ

マハカタニアタイタガサツリカハツテヒウタワサ 木葉赤色ノヤウニ

ビヤウキノビセツ  
うららきとねアツキのあやかし

クワイキレアカラ  
うららきとねアツキのあやかし

一 ちる

名用

とでぬゆきちりぬえてどかつりはしつるに今よりまづあはじりて

○サキダツテハワタシモツラヒニシテステニ死ニステアツカ ツチイオハヨリ先へ

ワハニテク山ハコエニイト存ニテ ソノ麓ニテ集テ足ニサ モトツテ系リニシタ

あひまどりり人のやうやくかどうくおなかりらるあひ

ふおやまもるらる紫よりみさをさしてはうらむらる

こすちらげり

時とてかどゆくさのし後并あつ今ハ思ひぞくやどわえらる

○秋モとテをガレニツタ世ハ火ヲツテヤイテモエル物チヤガ テウドもをセリテ

年ダテオハノ思ノかどニチタワタハ 今デハモウ じやまらむ子ノ思ヒガサ

モエテオナ ソデハ後オモハチリニヤケニタ コラウビテトサリニセ

ものあひらるるあおへまかりらるるさくー せらやん火 世火のこ

えらぬぬえてよえらる いせ

冬枯乃ゆきべとこが身減思ひをづもえてもまをまを し ぬを

○人ニ見ステラレタワガ身モ 冬枯ノアノ世ガヤト思フチラ アニテ やん マウニ

今コソ世ガモエルケレト ソデモ又春ニツタチラ 葉ガデルデアラウト思フテ

春ヲ待ウモノヲ ワレハモウアノ冬枯ノ野トハチガウテ 春ニツタトニモ

葉ノデルれニモナイ身ガヤウノ 従ガ ソチタ レウモス井リヤウレテタモイノ

歌ーいんむ ちりちり

あはれあはれきえてふきぬていひさぐら流れて後もしのちまらる

○水ノ沫ノキエルヤウニキエルホドワイニぬるがヤトトヒナガヲ イツモカウガカ

リデモアルイト ニダモヲ程ニニルフテヤスリニア儲モセズニカウレテ居ルハ

サテくヲチノアツヌ心カチ

ぬれなげく入てと。あゝの海也。  
おがきてと。わたり。

うそ人。うらみ

みる世川 着てゆくあはやくハ。此きしひあきあけゆくしぬと思つる

○水を漱川ニ有テ流レルがナイナバコソ ワガ中ヲトつひラケレテニウ

タトハ思ハウコナレ 水ノナイト云名ノあを漱川々ヤツリあハアツテ流レルナレ

バ も中モ絶ヤウナレド ヤツリ海ハアツテタエキリハ世ヌ<sub>ハ</sub>モアラウラサチ

田の白コガ中流くしづまきまきささくしづひあきくしづひさきしづふ  
川の氷脈をゆきしづふ。

みつね

よい野何よいやんくきくあめさやくいひくきくきくきくきくきく

○人ノツライハ 一ハテ世ヒガナイ 人コソツラカラウケレ ホレハニハカタヌテオイヌ

コトハイニテモワスレイトゴウ とやくハ。あせ川の海也。

よそ人。あき

世中の人乃心も花をめゆるらひやを此もあがみよる

○世中ノ人ノ心ト云モノハテウド花傍ノ色デカカリヤスイ抑デサゴサルワイ

あゝあゝとてふくく。しづめむくく。あゝとてふくく。あゝとてふくく。

○ウステヤ 人ヲ思フコチノ心ガサ ニクイヤツガヤワイ コチカラ思ハズハ サキノ心ノカハ

ルモ情カラウカイ 人ノ心カガツライモ コチカラ思ウユエチヤワイ

ふとハッそぞれごと。三世の白ふつきそつ了御きり。

こそやしら

色んして<sup>ほ</sup>うらふものよの中は人の心はふゆをうりり

○<sup>五</sup>兼やあの花ハ色がアルユニウツロウヂヤガ 色ハアルトモ尺ニスニ ウツリカハル

モノハ 世ノ中ノ人ノ心ガドレイ心ノ花デサゴザリニスイ

色んしてハあのをきけつあ。餘材。神ニ句のほらうー。

よと人あうげ

あのとやサ仰。ういそと好きまびせ人の心乃花とちりねむ

○<sup>五</sup>花ノチツテニウメヤウニ ツレソウ入ノ心ガカツテノイテニウメナラバ ウイコヤ

ツライコヤト号テ 相手ナレニワレヒトリ 香ノチクヤウニ 泣テ居ルデアラウカ<sup>ニ</sup> <sup>ニ</sup>ウイコヤ

世も男女はるをう。 ぢま。下を。人のむね花とちちらりあ

もとづらうらうー。花とハ花のぬくおとんしうぶく。まとのと。

あま。

あことり。ぢくめひあか  
あら。し。ち。つ。く。べ。

そせはは解

あまふらとかしねせ人をいふとむわくぢちりぬる花とアそ尺花

○イカホド妙念ニウタトニテモ 心ガカツテトホノイテユ人ヲバ ナントセウゾ ドウモ

セラフガナイ スヤ ニダヌタラヌウチニ早ウ最々花ヤトサウテ居ヤウニテ

とと人しりむ

今ハそて君がかしねぢわがやとの花をむむるとんてやまのむむ



○モウコレギリトモラテ 君ガトホノイテオモヤウニナツタナラ コチノモノモ  
ワレヒトリガヌテ 君ノウライユクトモヒダステアラウカ

むねのけの胡弓

高きかきもやもろくつしもおき人乃んろくもあまおうおき

○人ノワレヲ忘レタワスレモモ枯テモレ又モトノヤウニモアケルレモアヌカトモ

ハバワレヲワスレタツナイ人ノ心へ おガオケバヨイニトモハレル おデハソウタイモ

ガ枯レルモノナレバ ソウワレヲワスレタ忘モノカレルヤウナ

寛きあはれ時ぬ屏風より 奇かき世ねひらよ時よみく

つねよみゆき こそせいのちり

こころはあはれをうくぬねと思ひハはれもおき人の心おりりく

○ワスレモト云物ハ 何ヲタ子ニシテハエルトカトモラカ ソラタ子ハ ツナイ人ノ

心チヤワイノ ハテツナイ心カラシテ人ヲバ忘レモナヤウナ

歌一ノ終り

秋の田はいよてあふとこかきおきくふ何をうーとろく人の心かきく

○一ワレガキラウテモウイ子ト云何ヲカケヌモナイニ 人ノハヤウニモナイテ

和又ハ何ヲウイトモウテラフヤラ かけかき若稲の縁の河し

きのけのゆき

秋の田はいよてあふとこかきおきくふ何をうーとろく人の心かきく

○人ノ心ノ秋ガウイユニニ ワレハ何ヲワスレ神吾ノヤウニ泣テサヌアルワイ

よみ人よみ

つらきことしりしことおもしろいあはれあはれなるはなはなとむ

○抱アハレトモラ時モウイトモラ時モ トカク後カホロクホロクホロク

トコホレル ナゼニヤウニ候ガインガレウコホレルヲヤラ

館積キはあるとふらぶくーきほし

身さうーと思ふあきえぬものなればかてとへゆきあつとをりれ

○キツウ身ヲウイトモウニ命モ消サウニ思ハルケレモ ソレデモサカキ天世ヌモノ

ヂヤ スレバ<sup>かくても</sup>ヤウニウイオデモ ヤツリソレナリニ 天テユク世デサゴザルヲ

典侍 藤原直子<sup>ナダイコ</sup>の娘

つらまのかる藤原さむ、一はあかしくいふをこそわらわさむは恨むじ

○海士ノ前ル藤原中ニワカヲト云出カ住テ井ル物ヂヤト云フヂヤカソノ事ノ名

イトホリニ何ヲモワレカラヂヤ 藤原カラノコトヂヤトシラシニレテコソ

泣ナラ泣キモセウツナレ ツレソウ入ヲバ恨ミニイゾ ヨウモヒハレテスレバ

人ヲウラミルノハ大キナフカラヂヤ

ふ秋云、さうくは、己つらうと、  
系、りハ、中、の名、ハ、わ、く、で、ん、藤、小  
そむ、ち、の、と、く、さ、う、お、く、敷、ふ、も、つ、ら、ぬ、藤、原、の、う、く、い、つ、ら、ふ、も、つ、ら、じ、う、又、海  
人、と、い、ひ、て、あ、う、う、と、つ、ら、相、ハ、仁、徳、也、お、ま、る、と、や、あ、の、お、う、く、つ、ら、あ、い、ど  
あ、さ、さ、も、ち、ひ、て、よ、あ、し  
さ、あ、や、つ、ら、ん、

いむむ

わひそぬも、いれも、あまはく、うらなひあ、くは、れ、も、さ、う、く、む、れ、

○あまタイ人ニアレヌモノ、さくハツライノモ、ミシナ、あまカラノフヂヤ、スレヤドレ

ホド、号、ラ、ヌ、ト、テ、ア、レ、ル、フ、デ、ハ、ナ、イ、ニ、ハ、ヤ、ウ、ニ、下、紐、ノ、ト、ケ、ル、ハ、サ、テ、モ、く、ニア

ガ、テ、シ、ノ、ワ、ル、イ、ト、紐、カ、ナ、下、紐、も、は、さ、く、ハ、人、よ、う、く、あ、き、さ、さ、う、い、

宣旨の御意に依りて御座候事

此の御意に依りて御座候事

○ツレナイ人ヲモウ喜シウヤウニイゾト

後かコボレサテモクニア心ヨワイコナ

顔アツク 伊勢

人志とどくもえぬやうにうぶらびつてもぬきとどくもいふもぬを

○ニバウ安らへしレズニ絶々中デアラウコナ

ヤト云テセメテウキ名ヲヌヤウニナリ居セウモノヲ

モ知テ居レバ 吾イラヂヤレハレバ 絶々バカリカウキ名ヲ立テ

サテモイワラナツテコナ

此の御意に依りて御座候事

よみ人へおん

とどくもぬやうにうぶらびつてもぬきとどくもいふもぬを

○人ヲ休ム時ニハ 吾人ノ家ナリ居セウモノヲ

テ居ルコトテヒヨツトシタレハレシモ

早テ必ズテハナイゾヤ

ききあつてはぬを御座候事

此の御意に依りて御座候事

つよつよもぬやうにうぶらびつてもぬきとどくもいふもぬを

○自由ニアレル時ニハ 吾レイト云ハドノヤウナモノヤラシラナクニ

スキト絶テアレヌ時ニナツテハレシメテ人ノ志レイコモ知ルコナ

じびとつら時さへりのかろくはいつと涙さのおぼあしつら  
 ○ハヤウニ急ニアグミハテヌ時節ニサへ 主人ヲヤツリイトレイニイト思  
 ウテ候ノコボレルハ <sup>四</sup>ドコガ急シウテノコヤラ <sup>三</sup>ハヤウニウイツライメニアハ  
 スル人ナレバ イトレイノモ急シイノモナイハズチヤニ けうけしきはい  
 とわくおぼあしつら 三の句と急のおぼあしつらとつらとつら  
 おぼあしつらとつら 三の句と急のおぼあしつらとつらとつら

友よおきこりぞ

恨とておぼきても心むじろき後ふみゆる親あしつら  
 ○ウラニテモ泣テモ <sup>一</sup>ハカナ弁ヲ誰ヲお手ニレイハウツ <sup>二</sup>ヨスハモハヤ後テ一向  
 ニアウノモナレバ <sup>三</sup>鏡ハウルオガ親テオウテハ <sup>四</sup>お手ニレテニウヤウナイ

よき人あつた

夕さし <sup>一</sup>バ人 <sup>二</sup>あに <sup>三</sup>さ <sup>四</sup>あ <sup>五</sup>ら <sup>六</sup>ら <sup>七</sup>ひ <sup>八</sup>あ <sup>九</sup>く <sup>十</sup>ひ <sup>十一</sup>と <sup>十二</sup>め <sup>十三</sup>と <sup>十四</sup>お <sup>十五</sup>ぼ <sup>十六</sup>あ <sup>十七</sup>し <sup>十八</sup>つ <sup>十九</sup>ら  
 ○ユラカタニナレバ 君ガキテ寐モセヌ床ヲハラウテ 独り子ルトテハ イツノ夜デ  
 モノク ツライノヤト思フテメイキヲツイテ寐ルガヤガ ワレハニアハヤウニ  
 ツライ歎キヲセウメニ生 <sup>一</sup>レ <sup>二</sup>キ <sup>三</sup>メ <sup>四</sup>身 <sup>五</sup>カヤ <sup>六</sup>サ <sup>七</sup>テ <sup>八</sup>ヒ <sup>九</sup>ク <sup>十</sup>ワ <sup>十一</sup>ナ <sup>十二</sup>オ <sup>十三</sup>カ <sup>十四</sup>ナ  
 〇サツリ絶 <sup>一</sup>ニ <sup>二</sup>ウ <sup>三</sup>メ <sup>四</sup>中 <sup>五</sup>チ <sup>六</sup>ヤ <sup>七</sup>ノ <sup>八</sup>ニ <sup>九</sup>シ <sup>十</sup>ム <sup>十一</sup>人 <sup>十二</sup>ノ <sup>十三</sup>ツ <sup>十四</sup>カ <sup>十五</sup>ツ <sup>十六</sup>ツ <sup>十七</sup>ヲ <sup>十八</sup>又 <sup>十九</sup>ヒ <sup>二十</sup>ツ <sup>二十一</sup>カ <sup>二十二</sup>レ <sup>二十三</sup>テ <sup>二十四</sup>ハ <sup>二十五</sup>ヤ <sup>二十六</sup>ウ <sup>二十七</sup>ニ <sup>二十八</sup>恨  
 メレウツフツイノ 今サラ恨ニダトテナニノセガアラウツサテモクナワレガ心カナ  
 〇アラ田ヲ何ニモノスキカハスヤウニ ニア何ニモ人ノ心ヲトツクリト

ヨウカニガヘテステコソ モウラチアカスト云フハ定メウコナレ

あつりそ海乃もあつりよさごととれ夫ハ忘るゝこの教もぞるる

○漢ノミヨハノ教ハヨミツクスト云テモ 赤色ハヨシテモくツキイナド、

ギヤウサニニ云テ ワレヲヨロユハシテオイタ ソノ漢ノミサゴノ教ハ ミヅクサ

イフノケレカラヌタトヘテサ アツクワイ

何べららとさぬをささしゆくるのいやとささるるにぬあつりも

○芦原カラシラサシテヅトトニテユクるノダニくトをウナルヤウニ

だんぐトヒフスノトホノイテユクワレガ身ハニアカナレイコヂヤ

まごもつともみづらりもまは紫乃人の秋あつりまごらびりき

○時ぬガフリクヒテ本紫ノ色ノカハマテユク秋ノコロハツライモノキヤガ

ソヨリハ ムテオイタ河ノカハ人ノ心ノ秋ニアウオカサナホツライ

秋風はあきと吹ぬむさし生ハあつりま紫は色かりりらと

○秋風ガフキサスレバ アノ赤イ武花ヤデモ せハサツハリミナまの色

ガカツテ執ルワイ 人心モソトホリサ 餘材くどく

小町

秋をせりつらゆものこそわらひつれどがとむあつりあつりなとあへ

○秋ノ大風ニアウ稲ハサ キンドクナモノヂヤ 百穂ノ粒ミニシテ展ル田ガ

サツリニヒニナル ワレガ中モテウドソナ物デ 人ノ秋風ガフイテ

粒ミニセウタマフガ 時ムダニウタトアハサカナレイワイノ

いぬのとハ田の裏ふよせりらとて口の匂あつりむらりくつとてきてハ

いづれか、病を治すにや、いづれか、病を治すにや、いづれか、病を治すにや。

いづれか、病を治すにや、いづれか、病を治すにや、いづれか、病を治すにや。

秋風乃ふきさうくかへきさうくは葉乃恨ましもおがうくうくは

○上 ウラミヲモク 一、ヤリ恨ニガハヌサテモクウラミイコナ

よみ人ーらぞ

秋といへどもおぞましくいづれか、病を治すにや、いづれか、病を治すにや、いづれか、病を治すにや。

○秋ト云フゾバ ヨソクノウニサセテ居タガ ヨソクヲテハナイ ウリギナ人ノ

ワレヲヒ捨タノガ ワレヲアキト云モノデ ち名デウゴザルワイ

いづれか、病を治すにや、いづれか、病を治すにや、いづれか、病を治すにや、いづれか、病を治すにや。

○テウト榕ノ中ガキレテアバはル人モナイヤウニ 号フ人ニ忘レラレタ身ハウイ

モノデ 何年カモウ子カラ使モコヌワイ

○秋云、いづれか、病を治すにや、いづれか、病を治すにや、いづれか、病を治すにや、いづれか、病を治すにや。

又ちこねさうさうい人とりよつて

坂上、こねさう

いづれか、病を治すにや、いづれか、病を治すにや、いづれか、病を治すにや、いづれか、病を治すにや。

○まきりモナイニヤツハリアヒカラズ 意シタウテ月日ヲオクルウチニサハヤ何年カ

タラヌワイ 又ハアヒナイクトモウテ意シタウテ月日ヲオクルウチニサ

○秋云、いづれか、病を治すにや、いづれか、病を治すにや、いづれか、病を治すにや、いづれか、病を治すにや。

いづれか、病を治すにや、いづれか、病を治すにや、いづれか、病を治すにや、いづれか、病を治すにや。

いづれか、病を治すにや、いづれか、病を治すにや、いづれか、病を治すにや、いづれか、病を治すにや。

○セメテハ又末テナリトモフれニサナイワレガヤウチウイ身ハ イツクノ水ニウキナ

ガラ清ル沫ノキエテヒイナリハスバヨイ

○お秋云うきおがくハ、夏まきま、おこのまふうは、おるるべし。

よみ人きつば

流きてハいもせぬ山ノ中おあるよりせの川のうやせぬ中

○紀ノ國ノ妹山ト世山トノ間、若世川ガ流レテ事テ 中ノ人々テガアルカニハ

ソウタイ人間ノ男女中モ イツデモ始メノヤウニムツシウハナイハスノコデ

久シウチビ オノツカラカレコレガ出母テクルノモ ソノハズノコヂヤ ハテセヒガタイ

山デサハサウチヤモノ 若中ハ男女の中成いつし、こべく、男女

のおくし、いも、せぬも、その中、さといつこと、ま、い、ん、お、く、な、い、

古今和歌集巻第十の巻後

長傷秋

いも、せ、ぬ、も、ま、ま、り、き、る、時、よ、く、ま、る

小野、い、む、む、の、泪、光

な、く、後、あ、い、ゆ、り、お、せ、る、り、り、何、あ、ま、り、あ、バ、つ、ア、ら、る、う、お

○あがツタテラ <sup>ニセウツ</sup> 三途川ノあがテスデアラウソシタラ 妹ガヨウハラズニ又ハ世へ

モドツテクルトモアラウソノタメニ <sup>ツバ</sup> けが泣く後ガドウズ、あ、ト、ホリニ、バ、ヨイ

さ、れ、の、お、あ、き、お、あ、い、ま、ら、ち、ぎ、ら、白、川、の、う、く、う、り

<sup>送葬</sup> お、く、と、ま、る、東、ら、せ、る、そ、ま、い、は、師

ちの、後、お、ち、し、ぞ、く、ま、ら、る、川、を、あ、が、よ、ま、で、お、あ、い、こ、も、ま、

○<sup>三</sup>比川ノ名ヲ白川ト云ハ 比彦オカクレナサレタ良房公様ノ在<sup>ハ</sup>世<sup>ニ</sup>キリクサ  
 名<sup>ニ</sup>テアツタワイ 比殿<sup>ノ</sup>名<sup>ヲ</sup>カクレナサレタ<sup>レ</sup>バ 悲<sup>シ</sup>サニ拙<sup>ク</sup>傍<sup>ニ</sup>ガ泣<sup>ク</sup> 比<sup>ノ</sup>赤<sup>イ</sup>ナ  
 血<sup>ノ</sup>涙<sup>ガ</sup>ニガツサト流<sup>レル</sup>スヤモウ白川<sup>デ</sup>ハナイ 赤川<sup>ヂヤ</sup>

ほろろはのおろきおろき  
 ぬるるる心<sup>ハ</sup>しるる<sup>ハ</sup>後<sup>ハ</sup>おろき

傍<sup>ノ</sup>勝<sup>延</sup>

山<sup>ノ</sup>際<sup>ヲ</sup>か<sup>く</sup>も<sup>ん</sup>つと<sup>も</sup>ね<sup>ぐ</sup>ま<sup>つ</sup> 比<sup>彦</sup>あ<sup>は</sup>ら<sup>り</sup>ぶ<sup>ら</sup>い

○蟬<sup>ハ</sup>カ<sup>ラ</sup>ラ<sup>ヲ</sup>ヌ<sup>ギ</sup>ステ、オ<sup>イ</sup>テ ド<sup>コ</sup>ハ<sup>カ</sup>イ<sup>デ</sup>ニ<sup>ウ</sup>物<sup>ヂヤ</sup>ガ<sup>ソ</sup>レ<sup>モ</sup>ソ<sup>ノ</sup>ヌ<sup>チ</sup>ガ<sup>ラ</sup>ハ  
 イ<sup>ツ</sup>マ<sup>デ</sup>モ<sup>お</sup>ツ<sup>テ</sup>アル<sup>ニ</sup> 人<sup>ハ</sup>死<sup>ス</sup>ト<sup>ソ</sup>ノ<sup>ミ</sup>、ヌ<sup>チ</sup>ガ<sup>ラ</sup>艾<sup>焼</sup>テ<sup>ニ</sup>ウ<sup>テ</sup> 跡<sup>ハ</sup>お<sup>し</sup>  
 テ<sup>ハ</sup>オ<sup>カ</sup>ヌ<sup>モ</sup>デ 比<sup>基</sup>延<sup>公</sup>様<sup>モ</sup>は<sup>る</sup>骸<sup>サ</sup>ノ<sup>コ</sup>ラ<sup>ヌ</sup>ハ サ<sup>テ</sup>ク<sup>オ</sup>コ<sup>リ</sup>オ<sup>ホ</sup>

イ<sup>フ</sup>チ<sup>ヤ</sup> セ<sup>メ</sup>テ<sup>ソ</sup>ノ<sup>火</sup>葬<sup>ノ</sup>煙<sup>ナ</sup>リ<sup>モ</sup>お<sup>ツ</sup>テ<sup>アル</sup> 比<sup>彦</sup>あ<sup>は</sup>ら<sup>り</sup>ぶ<sup>ら</sup>い  
 ソ<sup>レ</sup>ヲ<sup>見</sup>テ<sup>ナ</sup>リ<sup>モ</sup>は<sup>る</sup>骸<sup>ノ</sup>ガ<sup>リ</sup>ヂヤ<sup>ト</sup>思<sup>フ</sup>テ<sup>サ</sup>ハ<sup>カ</sup>チ<sup>シ</sup>サ<sup>ラ</sup>ハ<sup>サ</sup>ウ<sup>ニ</sup>  
 た<sup>ら</sup>づ<sup>と</sup>あ<sup>つ</sup>つ<sup>と</sup>あ<sup>つ</sup> 様<sup>ノ</sup>方<sup>ハ</sup>い<sup>ま</sup>も<sup>と</sup>ど<sup>き</sup>ま<sup>は</sup> 様<sup>ハ</sup>あ<sup>は</sup>ら<sup>り</sup>ぶ<sup>ら</sup>い<sup>ハ</sup>  
 か<sup>く</sup>も<sup>ん</sup>つ<sup>と</sup>あ<sup>つ</sup> 比<sup>彦</sup>あ<sup>は</sup>ら<sup>り</sup>ぶ<sup>ら</sup>い<sup>ハ</sup> 煙<sup>ノ</sup>を<sup>も</sup>た<sup>し</sup>て<sup>見</sup>て<sup>ね</sup>  
 ぐ<sup>さ</sup>も<sup>ん</sup>つ<sup>と</sup>あ<sup>つ</sup> 上<sup>ノ</sup>ふ<sup>り</sup>ひ<sup>て</sup>下<sup>ハ</sup>お<sup>ろ</sup>せ<sup>し</sup>もの<sup>じ</sup>古<sup>き</sup>あ<sup>は</sup>  
 か<sup>く</sup>も<sup>ん</sup>つ<sup>と</sup>あ<sup>つ</sup> 傷<sup>ヲ</sup>を<sup>も</sup>た<sup>し</sup>て<sup>見</sup>て<sup>ね</sup> 比<sup>彦</sup>あ<sup>は</sup>ら<sup>り</sup>ぶ<sup>ら</sup>い<sup>ハ</sup>

う<sup>む</sup>つ<sup>き</sup>お<sup>み</sup>ひ<sup>を</sup>

比<sup>彦</sup>あ<sup>は</sup>ら<sup>り</sup>ぶ<sup>ら</sup>い<sup>ノ</sup>橋<sup>ノ</sup>く<sup>ら</sup>い<sup>は</sup>わ<sup>ら</sup>ぶ<sup>ら</sup>い<sup>ハ</sup> 比<sup>彦</sup>あ<sup>は</sup>ら<sup>り</sup>ぶ<sup>ら</sup>い<sup>ノ</sup>色<sup>ヲ</sup>サ<sup>ケ</sup>サ  
 ○比<sup>彦</sup>あ<sup>は</sup>ら<sup>り</sup>ぶ<sup>ら</sup>い<sup>ノ</sup>基<sup>延</sup>公<sup>様</sup>ヲ<sup>サ</sup>メ<sup>シ</sup>タ<sup>ハ</sup>比<sup>彦</sup>あ<sup>は</sup>ら<sup>り</sup>ぶ<sup>ら</sup>い<sup>ノ</sup>野<sup>ノ</sup>橋<sup>ニ</sup> 心<sup>ガ</sup>アル<sup>ヲ</sup> 今<sup>年</sup>ガ<sup>リ</sup>ハ  
 比<sup>彦</sup>あ<sup>は</sup>ら<sup>り</sup>ぶ<sup>ら</sup>い<sup>ノ</sup>色<sup>ニ</sup>サ<sup>ケ</sup>サ 人<sup>モ</sup>ミ<sup>ナ</sup> 比<sup>彦</sup>あ<sup>は</sup>ら<sup>り</sup>ぶ<sup>ら</sup>い<sup>ノ</sup>服<sup>ヲ</sup>キ<sup>テ</sup>居<sup>ル</sup>春<sup>ヂヤ</sup>ニ





チャワイ ソレニサ死ニテユク人ヲセキトメルシガラミハナイ

後京くぐぬさうきつひとてはる人のこゆるあはる時

ふらふらひおきほしよめ 閑院

とんぐぬらひ乃やちとびうけいさハ痛くあはれうりこぬうり

○人ノ死ヌルテホド流シテユク川ノ水トホリテ ニタビ返ツテクルト云フハナイ けだ

ノれヲサツヤぬカヲシハ推量ヤシメシタ ワタシハ同オニカヲ為シメシタ

サキへ早ウ死ニシタラヨカツタニ カウニテ生テアリニスノガ悔シウテ ヤらとんぐ ノリカヘシク

カナシイハ 四五 けだノゆゑデゴザリミス サキへ死ニシタナラ コナラハウチタ

ハルイモノ 餅初めをさふしうけいさ。ニの白ねむり。とはるのね

正とお照して味あべ。さき二の白ねむり。と。さきく切てハななうり

まいつづきし儘べーハななはなうりまへうまうり。悔かぬはる海かあはべ。

紀交明がさまうりふら。時よめ。

しんゆき

あはれぬ。我身と思どくさぬまはらうハ人さきかきうりうり終

○我身モ明日ハシレストハ思ヘド マダ善テ明日ニナラヌ今日ノウチハ

マアオレハカウニテおツテ居レバ 人ノ死ニガサ 悲シイワイ

しんゆき

時とつらき秋やと人乃日あはるべきあはるはるさうあはるさうあはる

○時節モアラウニ 秋ノ時ハニ人ノ死ナラウカキ 秋ハ抱ノカナシイ時節ナ

レバ 生テアルヲ見テサヘ ナツカレウ思ハレルニア

思中  
うづ思ひよしよめる

なほぬこつ

うづ月まぐさふゆかきみぢ紫のしづび人のしづりつる

○は十月のぬぬニヌレタぬ紫ヲ見レバ トニト悲シイコノアル者ノ袖ガヤワ

イ 今夜母橋ニハナシテカナレサニ 血ノ痕ヲ流シテヌレル花ガ袖ト ア

お紫ト 色モヌレヤウスモ トツトオチレテヤ

ちが思ひよしてさるる

ぬぢ衣まつりあちぢび人のぬぢぬぢをまじりける

○ワレガ今服デ着テ居ルキルモノハ ハツテ赤ハ 涙玉ヲツタダ緒ニナルワイ

涙ノテアド玉ヤウニコボレガ ハツタ赤ハ 玉ヲ結ヘツタヤウニ足エテサ

思ひよつるさしぬぢにぞうへまかりさるるさして

よめは

つらゆき

おるのあくてはしつらふさふさの中はおもひぬかき

○一二 今テデハ世ノ中ノウイ物ヂヤト云フヲタダウカクトカリソメニ思

ウテ居タカチ 今夜不幸ニアウテ世中ノウイヲ 哀ニ思ヒシツタ

おのひつりつる人をさかひあうとてよめる

うらみ

雲のまがしやまやのちやあやのしをくぬけ

○き秋ノキテ丹服ノ袖雲ガヤカシテ 涙ガまズヒタモノ雨ヤウニフリニス

おのひつりつる人をさかひあうとてよめる

おのひつりつる人をさかひあうとてよめる

○を洗五

四十一



まじりてもえはふりしのかりてかいらあらしきとまの又  
のまじりてみま入はぶくねきそしつらかりかひりあけりおどよ  
ろくびくはなまてしとるる 傍心遍昭

とねんち花の衣なりけりぬありあけのしゆもとよかきりぬおまよ

○世君久ハ登けきハモハヤハ服ヲヌイデ 花ヤカチ衣ニナツタチヤガ ぬきり ぬハソチ

花ノ衣トコロデハナイ 一ダ今ニ候ヲコボテ泣テバツカリ居バ 廿二ハハ候ニヌレ

夕暮ノ衣ノ袖ヨカワキナリ居セイサ 今ニ花ノ衣ニサハナクダチヤニ

何糸のおわいしうらまはれ ともりての秋うはれぬあらし候

トホリ まかりらふおねあはれ色まじりてはくもねくくざりきとをえて

うはれあふとそしとまの 近傍右のおわいしうらまはれ

うらつきふはびーらと何さうもみぢ葉もぬりねきやどの色おくりらと

○亭主ガナクナラシバ 花ノお葉女 ホツコリトニ交色カナイワイ ソレユエコノ

お葉ヲ見タバ ニカニミアドウヤラハををがサビシウ思ハルウカナ

葉あしうつひはねお花のみまかりての又のそしは交ぬるの唱

らへまきしとるる つしゆき

ほろがうもりさねくきおあつきとをぶあまきしとあまきしとあまきしと

○ケサ終云ノナク声ニビツクリシテ目がサマテ 出フテ見レバ アモウ終云ガ

ナチバ 去年ノ君ニ今シタ時希デサ オチヤルナイ

梅さうきしとまらにやうやく花さねぬあまきしとあ

うはくあらし人あまかりあらしをその花をえてあ

まのしんらゆき

まのしんらゆきをうらむるはなはな色づきまのしんらゆきをうらむるはなはな

○梅の花ハキツウ早ウツテ分ナイ物ヤカソヨリサキヘウエタ人がサ分ナウチウタイ

ア、新名ナ世中チヤ 花ト人トドチラガサキヘアタニツテ急シウアラウトモフダジ

イヤウニ花ヨリサキヘウエタ人がアタニツテ急シウアラウトハサラク羨モ思フナクヤ

あはれみまうりあまの人の家の梅花をうらむる

ほろゆき

香もあまむらうはなをうらむるはなはな色づきまのしんらゆきをうらむるはなはな

○け梅の花ヲ見レバ色モ香モ一ハカタノ濃サニカラス同シヤウニあまのしんらゆきテ見ゴ

トナケレバ 今年ハウエタ亭主ガ居ラレヌユ け花ヲ見ルニツツテアモ

ウエテヒサウシラシタ亭主ノ面ヲガサシイ

何系花のおもひやうち君はこゆるりて後うの家

いおかりてまうふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

ほろゆきをうらむるはなはな色づきまのしんらゆきをうらむるはなはな

まのしんらゆきをうらむるはなはな色づきまのしんらゆきをうらむるはなはな

○君ノゴザナサレヌデ 梅モヤカバ 煙ノ多シテニウタケシホガ二浦ハ カウ

又ワタシトコロガア 物がチシウサビシウ見エルカナ

あはれみまうりあまの人の家の梅花をうらむる

あはれみまうりあまの人の家の梅花をうらむる

あはれみまうりあまの人の家の梅花をうらむる

とむもやとらう〜きんぶいときど〜あき〜うり〜と  
えて二ハタ多自カモや〜そ〜おゆるハタばむ〜河ありひや〜て  
よみよめ  
みらるはあつときき

君ノウエテオカセラレタ タツタムラノ 為ガ シゲウナツテ 虫ノシゲウナク野

ニトモアオツタワイ サテモ〜ケレタヌアキウカチ

ら〜し〜ゆ〜は〜み〜の〜ち〜の〜化〜リ〜む〜時〜〜よ〜老〜り〜ら〜せ〜  
ち〜ぞ〜と〜し〜あ〜ひ〜り〜と〜ば〜か〜ま〜て〜お〜り〜き〜る〜お〜〜お〜よ〜み〜て〜ら〜  
ま〜り〜き〜る  
せ〜と〜の〜り

お〜く〜は〜ら〜ば〜は〜柴〜ま〜も〜き〜え〜お〜ひ〜と〜と〜ば〜候〜乃〜〜に〜す〜ま〜り〜ら〜と

○我父ハトテモ死ナルナラバ ヨシテオカレタラウマデモ ミナイツレヨニ イツソ情テヒマ  
ヘバヨイニ ナマナカニけらガ終テアツテ 跡デ見レバ 一トホモヒガサレテ イヨク  
カチレサガマスワイ

親も〜ら〜び

よ〜と〜び〜と〜も〜ら〜び

な〜き〜人〜乃〜を〜ど〜ふ〜く〜よ〜つ〜ぶ〜親〜を〜か〜ま〜ま〜し〜孫〜お〜の〜と〜お〜く〜と〜ほ〜ぎ〜を〜む

○郭ろハ死シタ人ノ居ル所ヘカヨフもヤト云フヤガ イヨクサウナラバ

コヤ 郭云ヨオレガジャウヂウフケテ也ウテ泣テハツカリ居ルト云フヲ アチヘシラシテク  
レカン 又かけてハイヒダレテ

〜ゆ〜き〜ん〜よ〜と〜ん〜死〜す〜き〜〜む〜お〜や〜お〜と〜つ〜せ〜と〜を〜や〜く〜お〜り〜は〜し〜お〜と

○けらノけらハタレニヨトテ嘆タヤラ 亭主ハ死ナレテ家モアレテ けらハモヤ

今<sup>レ</sup>テハ 里<sup>三四</sup>をイ野<sup>ノ</sup>ヤウニナッテヒマ<sup>ノ</sup>物ヲ 苑<sup>ノ</sup>が嘆<sup>タ</sup>トテタ<sup>レ</sup>ガ足<sup>ノ</sup>ヤウ<sup>ノ</sup>

チサオ<sup>ノ</sup>三四の句<sup>ヲ</sup>火<sup>ノ</sup>葦<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>り<sup>ノ</sup>づ<sup>ノ</sup>り<sup>ノ</sup>お<sup>ノ</sup>せ<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>わ<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>つ<sup>ノ</sup>ハ<sup>ノ</sup>ら<sup>ノ</sup>。

或<sup>レ</sup>初<sup>メ</sup>つ<sup>ノ</sup>み<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>第<sup>ノ</sup>院<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>お<sup>ノ</sup>れ<sup>ノ</sup>こ<sup>ノ</sup>お<sup>ノ</sup>ま<sup>ノ</sup>こ<sup>ノ</sup>り<sup>ノ</sup>き<sup>ノ</sup>る<sup>ノ</sup>波<sup>ノ</sup>つ<sup>ノ</sup>く<sup>ノ</sup>

も<sup>ノ</sup>つ<sup>ノ</sup>で<sup>ノ</sup>女<sup>ノ</sup>み<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>女<sup>ノ</sup>み<sup>ノ</sup>ま<sup>ノ</sup>かり<sup>ノ</sup>お<sup>ノ</sup>る<sup>ノ</sup>時<sup>ノ</sup>ふ<sup>ノ</sup>れ<sup>ノ</sup>み<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>こ<sup>ノ</sup>も<sup>ノ</sup>る<sup>ノ</sup>情<sup>ノ</sup>

の<sup>ノ</sup>う<sup>ノ</sup>こ<sup>ノ</sup>び<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>む<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>お<sup>ノ</sup>ぬ<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>波<sup>ノ</sup>ゆ<sup>ノ</sup>ひ<sup>ノ</sup>つ<sup>ノ</sup>き<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>り<sup>ノ</sup>き<sup>ノ</sup>る<sup>ノ</sup>波<sup>ノ</sup>そ<sup>ノ</sup>り<sup>ノ</sup>て<sup>ノ</sup>見<sup>ノ</sup>

ま<sup>ノ</sup>び<sup>ノ</sup>む<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>は<sup>ノ</sup>も<sup>ノ</sup>お<sup>ノ</sup>て<sup>ノ</sup>此<sup>ノ</sup>方<sup>ノ</sup>を<sup>ノ</sup>お<sup>ノ</sup>せ<sup>ノ</sup>う<sup>ノ</sup>れ<sup>ノ</sup>つ<sup>ノ</sup>ま<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>り<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>ま<sup>ノ</sup>。

か<sup>ノ</sup>ぢ<sup>ノ</sup>く<sup>ノ</sup>お<sup>ノ</sup>ぬ<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>目<sup>ノ</sup>を<sup>ノ</sup>後<sup>ノ</sup>ぬ<sup>ノ</sup>もの<sup>ノ</sup>あ<sup>ノ</sup>ぶ<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>女<sup>ノ</sup>庭<sup>ノ</sup>を<sup>ノ</sup>ち<sup>ノ</sup>れ<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>ん<sup>ノ</sup>ん<sup>ノ</sup>よ

○<sup>レ</sup>此<sup>ノ</sup>條<sup>ノ</sup>切<sup>レ</sup>ニ思<sup>ハ</sup>テワタシ<sup>ノ</sup>ガ<sup>ノ</sup>ヲ<sup>ノ</sup>忘<sup>レ</sup>ト<sup>レ</sup>サ<sup>レ</sup>ヌ<sup>ノ</sup>モノ<sup>ノ</sup>ナ<sup>レ</sup>バ 山<sup>ノ</sup>へ<sup>ノ</sup>タ<sup>チ</sup>チ<sup>ノ</sup>ス<sup>レ</sup>度<sup>ノ</sup>ヲ<sup>ノ</sup>ア<sup>ハ</sup>

レ<sup>ト</sup>ハ<sup>ノ</sup>思<sup>ハ</sup>テ<sup>レ</sup>ゴ<sup>ラ</sup>ウ<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>ト<sup>レ</sup>サ<sup>リ</sup>マ<sup>セ</sup> 山<sup>ノ</sup>庭<sup>ノ</sup>ガ<sup>ノ</sup>ワタシ<sup>ノ</sup>ガ<sup>ノ</sup>煙<sup>ノ</sup>ニ<sup>レ</sup>ナ<sup>リ</sup>マ<sup>シ</sup>タ<sup>レ</sup>ル<sup>ノ</sup>ユ<sup>カ</sup>リ<sup>テ</sup>

ユ<sup>カ</sup>リ<sup>ニ</sup>ス<sup>ル</sup>ホ<sup>ド</sup>ニ 打<sup>テ</sup>サ<sup>シ</sup>ム<sup>レ</sup>ど<sup>レ</sup>く<sup>ノ</sup>お<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>ほ<sup>ノ</sup>ら<sup>ノ</sup>あ<sup>ノ</sup>。

ま<sup>ノ</sup>こ<sup>ノ</sup>女<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>お<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>ま<sup>ノ</sup>かり<sup>ノ</sup>り<sup>ノ</sup>さ<sup>ノ</sup>お<sup>ノ</sup>女<sup>ノ</sup>お<sup>ノ</sup>た<sup>ノ</sup>う<sup>ノ</sup>お<sup>ノ</sup>や<sup>ノ</sup>ま<sup>ノ</sup>い

ま<sup>ノ</sup>て<sup>ノ</sup>ま<sup>ノ</sup>ま<sup>ノ</sup>り<sup>ノ</sup>に<sup>ノ</sup>り<sup>ノ</sup>時<sup>ノ</sup>よ<sup>ノ</sup>み<sup>ノ</sup>お<sup>ノ</sup>き<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>み<sup>ノ</sup>ま<sup>ノ</sup>う<sup>ノ</sup>お

ま<sup>ノ</sup>家<sup>ノ</sup> ち<sup>ノ</sup>ま<sup>ノ</sup>い<sup>ノ</sup>ら<sup>ノ</sup>ど

あ<sup>ノ</sup>う<sup>ノ</sup>ま<sup>ノ</sup>あ<sup>ノ</sup>さ<sup>ノ</sup>う<sup>ノ</sup>で<sup>ノ</sup>わ<sup>ノ</sup>ら<sup>ノ</sup>う<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>も<sup>ノ</sup>あ<sup>ノ</sup>ら<sup>ノ</sup>わ<sup>ノ</sup>も<sup>ノ</sup>あ<sup>ノ</sup>き<sup>ノ</sup>ま<sup>ノ</sup>あ<sup>ノ</sup>お<sup>ノ</sup>れ<sup>ノ</sup>む<sup>ノ</sup>あ<sup>ノ</sup>ど<sup>ノ</sup>か<sup>ノ</sup>あ<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>き<sup>ノ</sup>

○<sup>レ</sup>遊<sup>ノ</sup>射<sup>ノ</sup>ニ<sup>レ</sup>お<sup>ノ</sup>へ<sup>ノ</sup>ハ<sup>ノ</sup>カ<sup>ノ</sup>リ<sup>ノ</sup>ナ<sup>ノ</sup>ツ<sup>ノ</sup>タ<sup>ノ</sup>ラ ワ<sup>ノ</sup>タ<sup>ノ</sup>シ<sup>ノ</sup>ハ<sup>ノ</sup>モ<sup>ノ</sup>ウ<sup>ノ</sup>今<sup>ノ</sup>度<sup>ノ</sup>死<sup>ニ</sup>テ<sup>レ</sup>ニ<sup>レ</sup>ウ<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>居<sup>モ</sup>セ<sup>ヌ</sup>床<sup>ヘ</sup>

オ<sup>ノ</sup>ヒ<sup>ト</sup>リ<sup>サ</sup>ビ<sup>シ</sup>ウ<sup>ハ</sup>寝<sup>ナル</sup>デ<sup>ア</sup>ラ<sup>ウ</sup>ト<sup>な</sup>じ<sup>ム</sup>ス<sup>バ</sup> オ<sup>ノ</sup>マ<sup>ノ</sup>ハ<sup>ノ</sup>は<sup>ノ</sup>ま<sup>ラ</sup>サ<sup>ヘ</sup>エ<sup>キ</sup>カ<sup>ズ</sup>ニ

ワ<sup>カ</sup>レ<sup>テ</sup>死<sup>ニ</sup>ス<sup>ル</sup>ワ<sup>タ</sup>シ<sup>ガ</sup>魂<sup>ヨ</sup>リ<sup>モ</sup> オ<sup>ノ</sup>マ<sup>ノ</sup>ハ<sup>ノ</sup>カ<sup>ノ</sup>サ<sup>ノ</sup>ワ<sup>ニ</sup>ヤ<sup>ノ</sup>オ<sup>ノ</sup>イ<sup>ト</sup>シ<sup>イ</sup>

や<sup>ノ</sup>ま<sup>ノ</sup>い<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>ま<sup>ノ</sup>づ<sup>ノ</sup>い<sup>ノ</sup>け<sup>ノ</sup>る<sup>ノ</sup>秋<sup>ノ</sup>あ<sup>ノ</sup>ち<sup>ノ</sup>女<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>め<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>と<sup>ノ</sup>い<sup>ノ</sup>げ<sup>ノ</sup>お

く<sup>ノ</sup>お<sup>ノ</sup>ぢ<sup>ノ</sup>く<sup>ノ</sup>り<sup>ノ</sup>ま<sup>ノ</sup>づ<sup>ノ</sup>い<sup>ノ</sup>け<sup>ノ</sup>る<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>も<sup>ノ</sup>あ<sup>ノ</sup>つ<sup>ノ</sup>う<sup>ノ</sup>し<sup>ノ</sup>き<sup>ノ</sup>る

ち<sup>ノ</sup>い<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>里



のみぢら葉波風ふまうをて見るよりもさうおきものさ合おりらる

○お染ヲ風ノフクナリニシテオイトルヨリモマダハカナイ物ハワシガ合下デ

コザンワイ モウクカウチス今モシレセヌ

みまかりおむしてよめ。 後、ふくまゆりや

さ終るるどつどおる物と思ひらゆ。 ち終るもそのおあぬむぐりり

○ヒゴロニオハカナイ物ヤトハナセオラタコヤラ ハカナイハオガカリテハナイ

サウオラオレが身モ 参ヤウニオカヌト云ガカリテコソアレ 今借ウ

モシレ子バ 處トナニモカルコハナイニ

やまひししてさうくたうりおる。おきめ

なうりひく乃お長

はひふゆくささうはうてさうかどお日くやとハありさざりしを

○死ニテユク道ハ ツムカ タレデモイツハセヒニユク及ヤト云コハ カチがアテテ居テ

ヨウカアニシテ居タケレド ソレデモイヤウニモウ今日カ明日ユカウコトハ思ハナシダニ

ハヤその時キガキタツテ死ナチバナラヌコカヤ

ア、あふ心のあつたまうおとまをさるるこのいひもく、ありささう、いひささき  
ことをおぼべ、いひささきをさるる人のまふさうらる。

かひのふり、つひあつておき人さかづつむしてまかりらる

ささうあておえさあやまひさしていひく、とつりおるささむ

よまひ、おふおてはうりておき、見きよといひて人お

はきをたうりらる。 ありつ、おまげさる

かうとそえおゆきうひぢらさお思ひら、今うらだおのかうでなうりらる

○甲斐、奥へ系ルハ旅ヲ ツイカリソメテ往来ガヤトサ存ジテ 出テ来リニシ  
 女ガ とも時ガモイハヤハ世ノイ上ゴノ門<sup>カキ</sup>出テガリマシタワイナ

を後五のすをけ終

# 和歌三代調類題

全六冊

和歌三代調類題は古今後撰拾遺に二代以来の時代の歌人の歌の類を以て大凡に分類せしむるに  
 其人を末末本抄等と云ふ事も傳言のあやまりなりと云ふれりゆへに御中書に御歌等と云ふ事あり  
 するは是れと撰出しくぬる事に於て是れを御歌等と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
 小の世にもなるなり故に代末の俊成御定を以て御中書と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
 本と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
 出たりの事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
 調の遠る事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
 頃と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
 さはかりと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり  
 等と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり

## 書肆

尾張名古屋本町七丁目 永樂屋東四郎  
 江戸日本橋通白銀丁三丁目 同 出店

